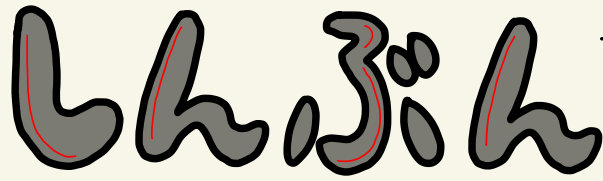



火曜日に
まに合わなかったわ

Vol. 81



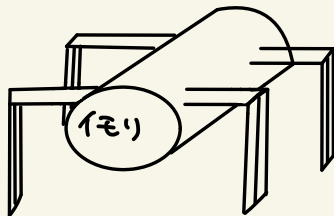
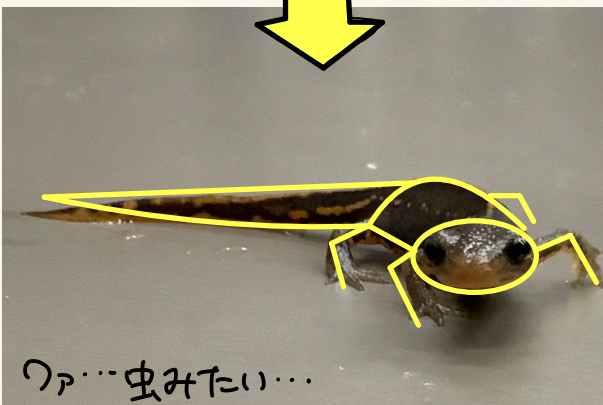
原...を考...
マ...が家...
こん...持...
なの...か...


発行日：2023年 7月 5日

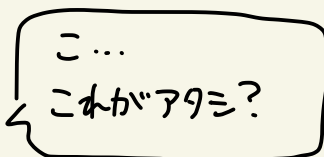
発行：朝日塾中等教育学校 理科

イモリの姿勢2

前回の振り返り



模式図



第二人類?

陸上生活を行うためには、さまざまな体のパーツが必要になります。

まず四肢の構造ですが、体幹に近い部分（近位）には1本の骨（上腕骨と大腿骨）、少し遠位には2本の骨（橈骨と腓骨、頸骨と腓骨）、そして手首と足首の部位を構成する太く短い骨（手根骨と足根骨）が続き、さらに遠位には扇状に広がる骨（中手骨と中足骨）、最後には列をなして指を構成する骨（指節骨と趾節骨）があります。体幹からより遠位にある骨は、動物が陸上生活を始めた際に獲得した、比較的新しいパーツです。

体の強化も行う必要があり、肩帯と腰帯を変化させています。具体的には、魚類の時には連結していた頭部と肩帯の切り離しがあります。そのおかげで、頭部と体幹を独立させて動かすことができるようになりました。腰帯は背側に移動し脊柱と結合することで、後肢と脊柱の間で骨が連結されるようになりました。これにより、後肢の推進力を体に伝えることができます。

肩帯と腰帯の下部（腹側部）が大きく広がったため、四肢の下面には強力な筋群の付着面ができました。四肢の下面の筋群は、いわゆる屈筋群であり...、まだまだ書くことがありますが一ここで終わります。

この話してみもしりんかな



自分うけはしている

参考文献

Radinsky, L. D. 2002. 脊椎動物デザインの進化（山田格、訳）（初版）. 海游舎, 東京, 214pp.

次回 イモリの姿勢3